

令和6年度みどりの市民意識調査 概要版

調査概要

1 調査目的

市民のみどりに関する満足度やみどりの施策に対する評価等を把握するとともに、みどりの基本計画の成果目標の達成状況を把握し、計画の見直しや施策の検討の一助とすることを目的に行うものである。

2 調査仕様

調査対象	仙台市に居住する満18歳以上の男女 5,000人
抽出方法	令和6（2024）年9月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	無記名の質問紙調査（郵送による配布・回収、WEB回答も可とする）

3 調査期間

調査票発送	令和6（2024）年9月30日
回収期限	令和6（2024）年10月18日

4 有効回収数・回収率

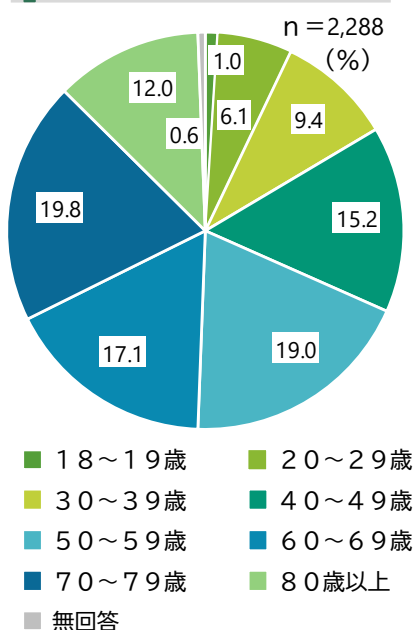
有効回収数	2,288票
有効回収率	45.8%

5 留意事項

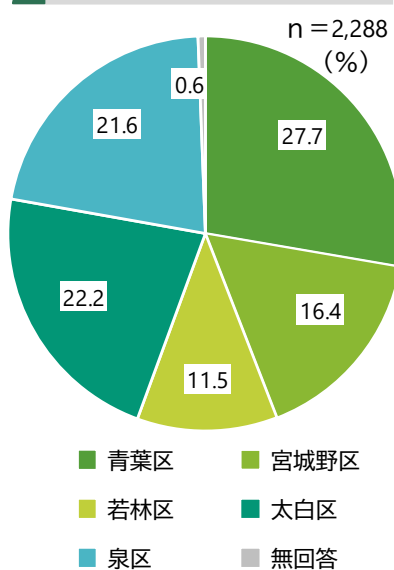
回答割合は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出している。したがって、単一回答式の質問においては、回答割合を合計しても100.0%にならない場合がある。また、複数回答式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の割合を合計すると100.0%を超える場合がある。

調査回答者の属性

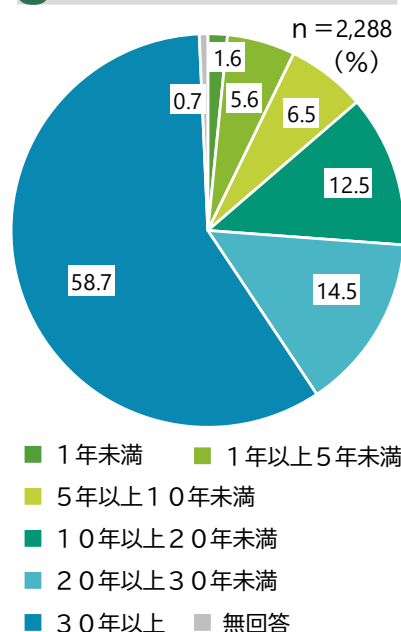
1 年代



2 居住地区

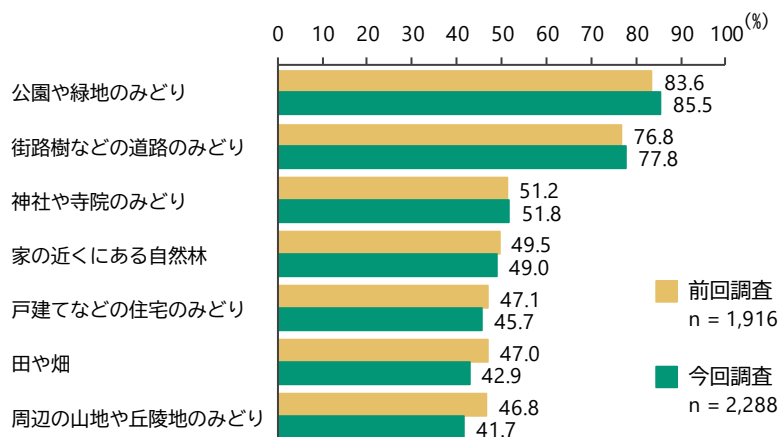


3 居住年数



身近なみどりについて

1 身近なみどり



■今回（2024 年度）調査

概ね8割前後の人が「公園や緑地のみどり」、「街路樹などの道路のみどり」を選んでいる。

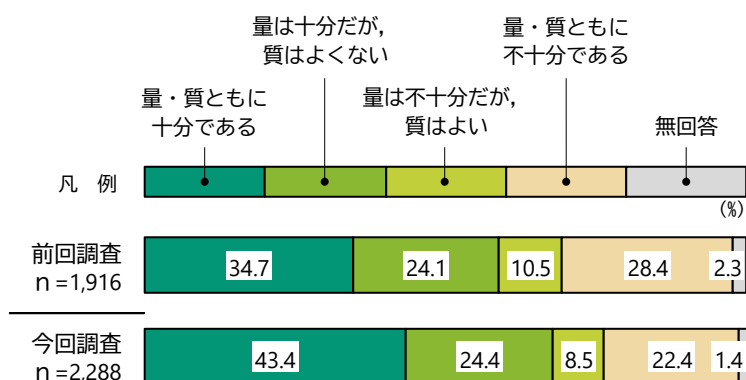
■前回（2019 年度）調査との比較

大きな傾向の変化はみられない。

※複数回答可（個数制限なし）

※今回（2024 年度）調査の上位7項目を抜粋

2 身近なみどりの満足度



■今回（2024 年度）調査

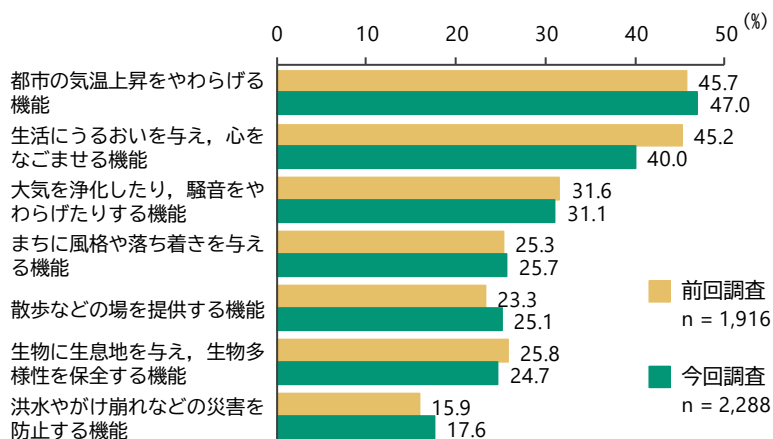
4割以上の人が「量・質ともに十分である」を選んでいる。

■前回（2019 年度）調査との比較

「量・質ともに十分である」がやや上昇、「量・質ともに不十分である」がやや下降しており、満足度が上昇していることがうかがえる。

※みどりの「質」：生活環境を良くする、生物を保全する、景観を美しくする、癒しになるなど、みどりが持つ機能のこと

3 身近なみどりに期待する機能



■今回（2024 年度）調査

約4～5割の人が「都市の気温上昇をやわらげる機能」、「生活にうおいを与え、心をなごませる機能」を選んでいる。

■前回（2019 年度）調査との比較

大きな傾向の変化はみられない。

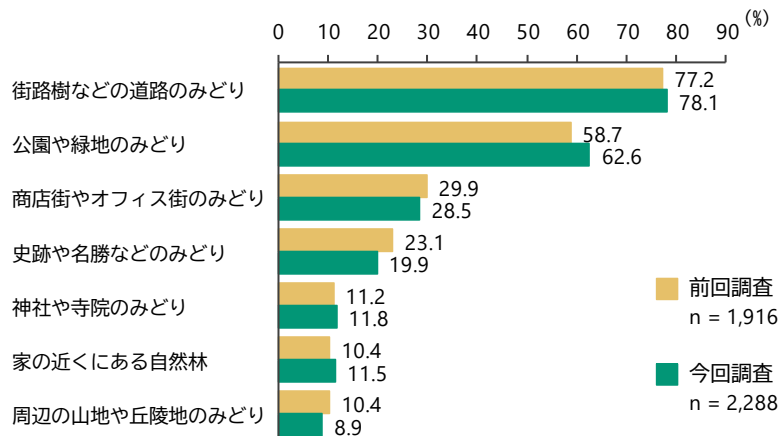
※複数回答可（3つまで）

※今回（2024 年度）調査の上位7項目を抜粋

※一部選択肢の文言を省略して掲載

杜の都という言葉について

1 杜の都という言葉から思い描くみどり



■今回（2024 年度）調査

約8割の人が「街路樹などの道路のみどり」、約6割の人が「公園や緑地のみどり」を選んでいる。

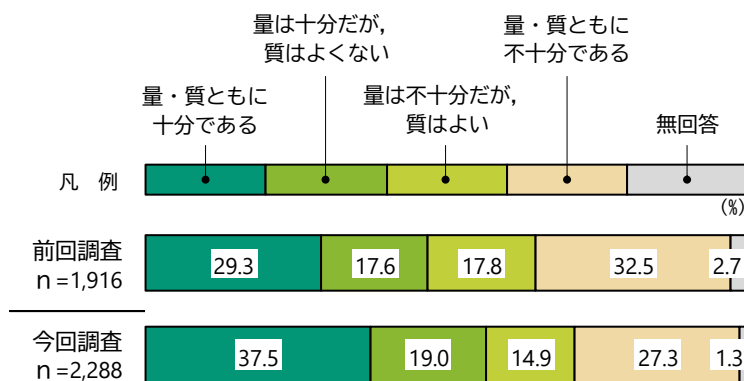
■前回（2019 年度）調査との比較

大きな傾向の変化はみられない。

※複数回答可（3つまで）

※今回（2024 年度）調査の上位7項目を抜粋

2 杜の都という言葉からみるみどりの満足度



■今回（2024 年度）調査

約4割の人が「量・質ともに十分である」を選んでいる。

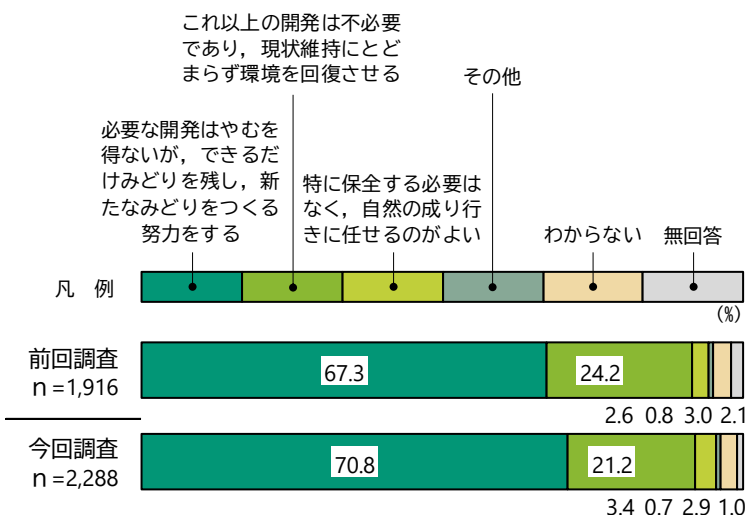
■前回（2019 年度）調査との比較

「量・質ともに十分である」がやや上昇、「量・質ともに不十分である」がやや下降しており、満足度が上昇していることがうかがえる。

みどりのまちづくりについて

1 樹林地などの身近なみどりの保全について

①自然のみどりの保全と都市開発とのバランス



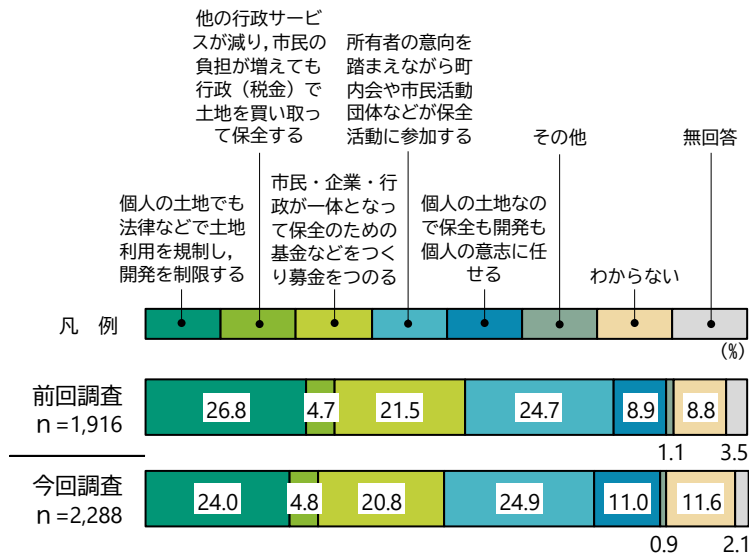
■今回（2024 年度）調査

約7割の人が「必要な開発はやむを得ないが、できるだけみどりを残し、新たなみどりをつくる努力をする」を選んでいる。

■前回（2019 年度）調査との比較

大きな傾向の変化はみられない。

②私有地のみどりの保全方法



■今回（2024 年度）調査

2割台半ばの人が「所有者の意向を踏まえながら町内会や市民活動団体などが保全活動に参加する」、「個人の土地でも法律などで土地利用を規制し、開発を制限する」を選び、次いで「市民・企業・行政が一体となって保全のための基金などをつくり募金をつくる」を選んでい

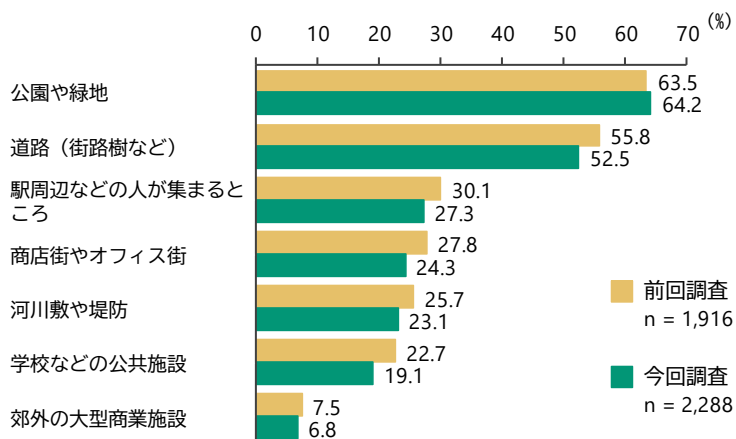
■前回（2019 年度）調査との比較

大きな傾向の変化はみられない。

※一部選択肢の文言を省略して掲載

2 市街地の緑化について

①重点を置くべき緑化箇所



■今回（2024 年度）調査

5割以上の人が「公園や緑地」、「道路（街路樹など）」を選んでい

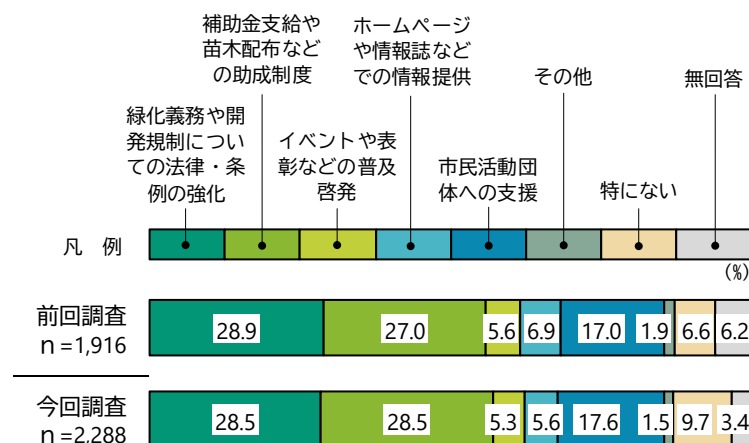
■前回（2019 年度）調査との比較

大きな傾向の変化はみられない。

※複数回答可（3つまで）

※今回（2024 年度）調査の上位7項目を抜粋

②みどりの増加に必要な行政の取り組み



■今回（2024 年度）調査

約3割の人が「緑化義務や開発規制についての法律・条例の強化」、「補助金支給や苗木配布などの助成制度」を選んでい

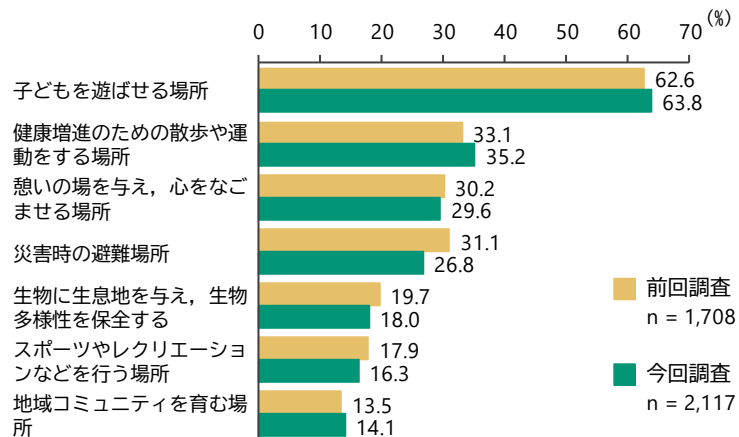
■前回（2019 年度）調査との比較

大きな傾向の変化はみられない。

3 公園について

①住まいの近くの公園の役割

※お住まいの近くに公園がある人のみ聴取



■今回（2024年度）調査

6割以上の人が「子どもを遊ばせる場所」を選んでいる。

■前回（2019年度）調査との比較

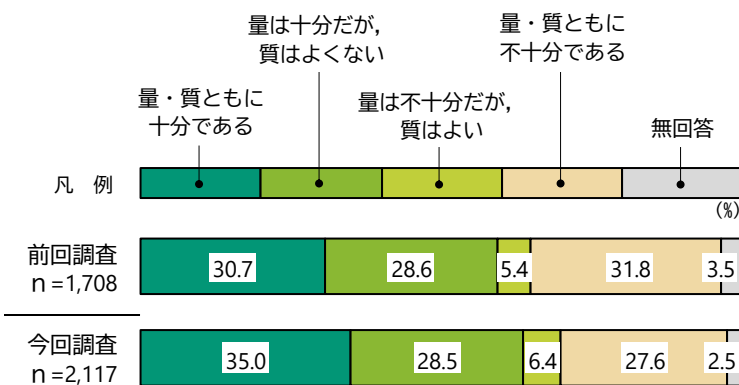
大きな傾向の変化はみられない。

※複数回答可（3つまで）

※今回（2024年度）調査の上位7項目を抜粋

※一部選択肢の文言を省略して掲載

②住まいの近くの公園の満足度



■今回（2024年度）調査

3割台半ばの人が「量・質ともに十分である」を選んでいる。

■前回（2019年度）調査との比較

全体的に大きな傾向の変化はみられないが、「量・質ともに十分である」がやや上昇、「量・質ともに不十分である」がやや下降しており、満足度がやや上昇していることがうかがえる。

※公園の「量」：広さや数のこと

公園の「質」：施設の整備や公園の管理・運営の状況のこと

4 「都心部」と「住宅地」の街路樹について

①街路樹の満足度

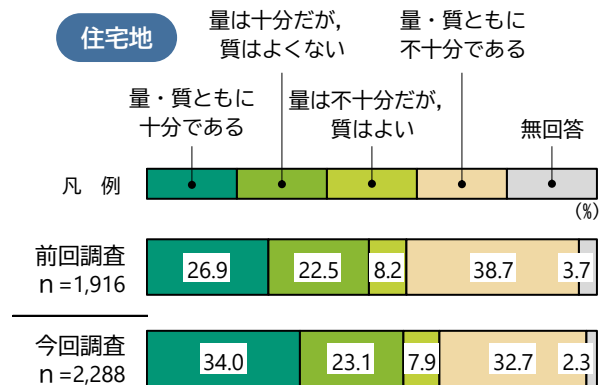
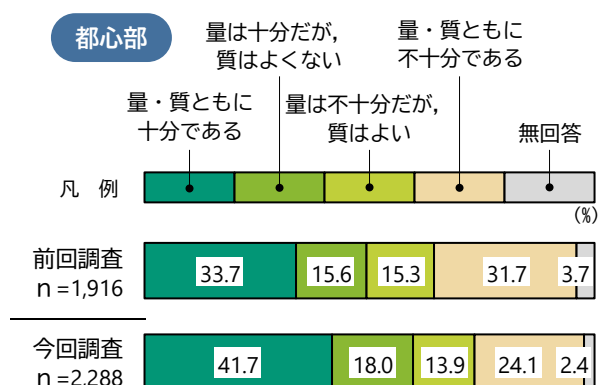
■今回（2024年度）調査

都心部では約4割の人、住宅地では3割台半ばの人が「量・質ともに十分である」を選んでいる。

※街路樹の「質」：気候緩和などの都市環境を改善する、景観を美しくする、生物を保全する、癒しを与えるなど、街路樹が持つ機能のこと

■前回（2019年度）調査との比較

都心部、住宅地ともに、「量・質ともに十分である」がやや上昇、「量・質ともに不十分である」がやや下降しており、満足度が上昇していることがうかがえる。



②街路樹に期待する機能

■今回（2024 年度）調査

都心部では約5割の人が「気候緩和など都市環境を改善する機能」を選び、住宅地では約5割の人が「紅葉などによって季節感を与える機能」を選んでいる。

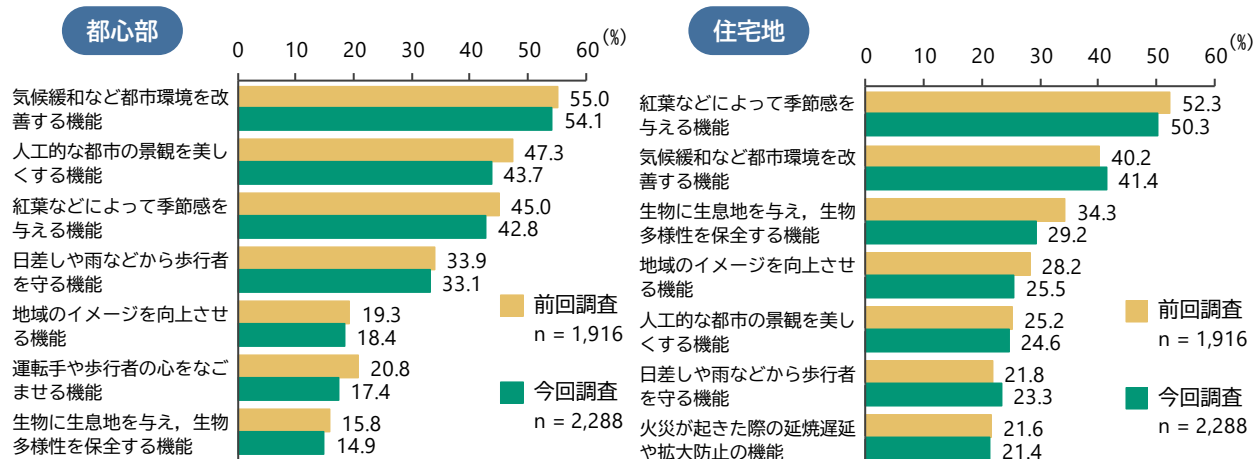
■前回（2019 年度）調査との比較

都心部、住宅地どちらも、大きな傾向の変化はみられない。

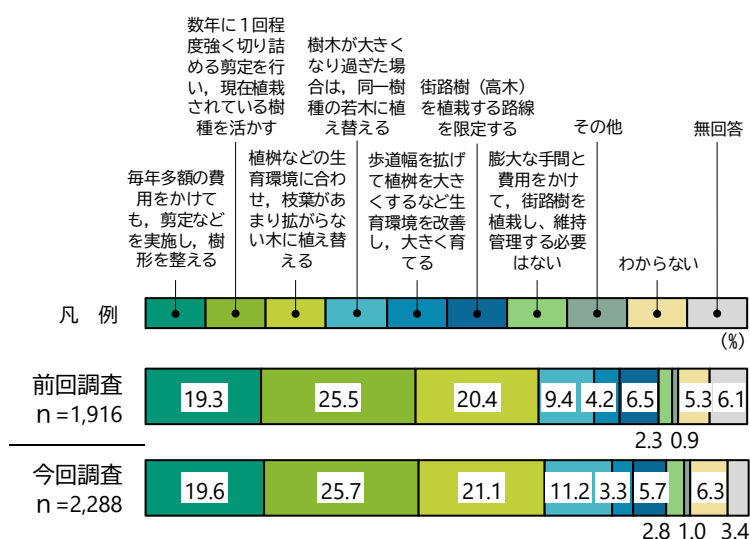
※複数回答可（いずれも3つまで）

※今回（2024 年度）調査の上位7項目を抜粋

※一部選択肢の文言を省略して掲載



③高木（樹高3m以上）の街路樹の管理



■今回（2024 年度）調査

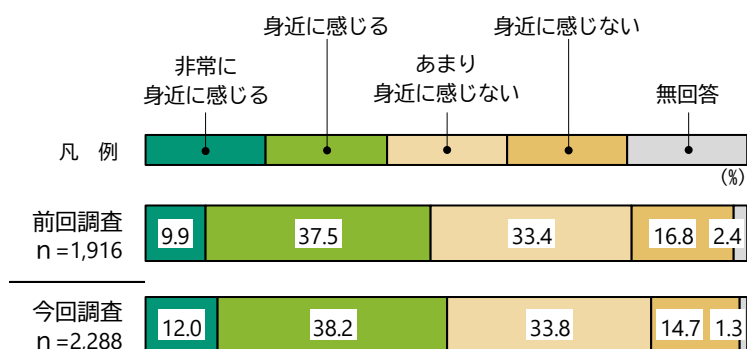
2割台半ばの人が「数年に1回程度強く切り詰めるような剪定を行い、現在植栽されている樹種を活かす」を選んでいる。

■前回（2019 年度）調査との比較

大きな傾向の変化はみられない。

5 河川について

①仙台市の河川への親しみ



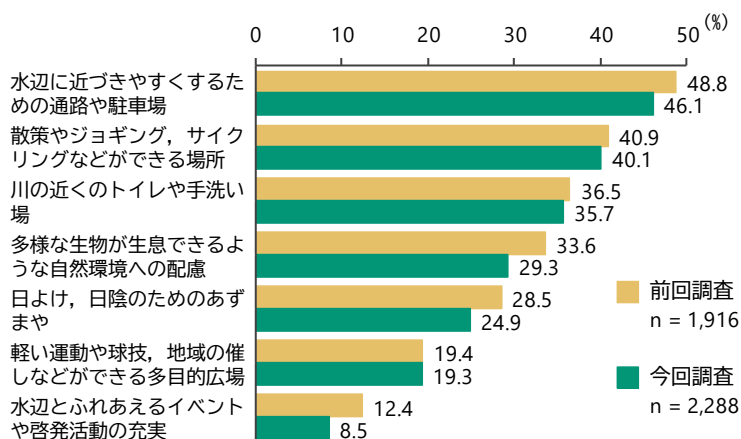
■今回（2024 年度）調査

「(非常に)身近に感じる」、「(あまり)身近に感じない」ともに、概ね5割前後となっている。

■前回（2019 年度）調査との比較

大きな傾向の変化はみられない。

②水辺空間の利用に特に必要なもの



■今回（2024 年度）調査

4割以上の人が「水辺に近づきやすくするための通路や駐車場」、「散策やジョギング、サイクリングなどができる場所」を選んでいる。

■前回（2019 年度）調査との比較

全体的に大きな傾向の変化はみられないが、ほぼ全ての項目で回答割合が下降している。

※複数回答可（3つまで）

※今回（2024 年度）調査の上位7項目を抜粋

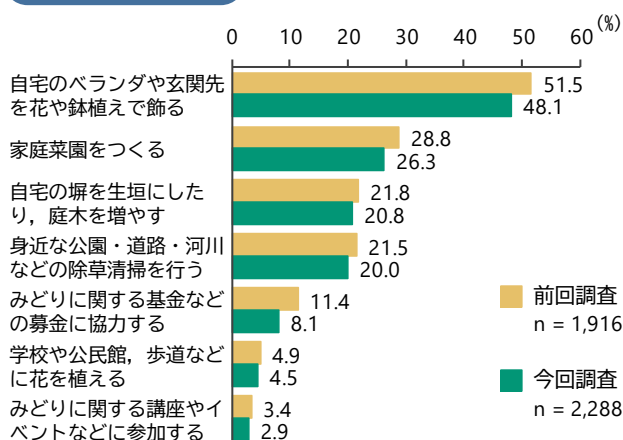
みどり豊かなまちづくりへの参加について

1 みどり豊かなまちづくりのために実践している・実践したい活動

■今回（2024 年度）調査

実践している活動、実践したい活動どちらも、4割以上の人が「自宅のバルコニーや玄関先を花や鉢植えで飾る」を選んでいる。

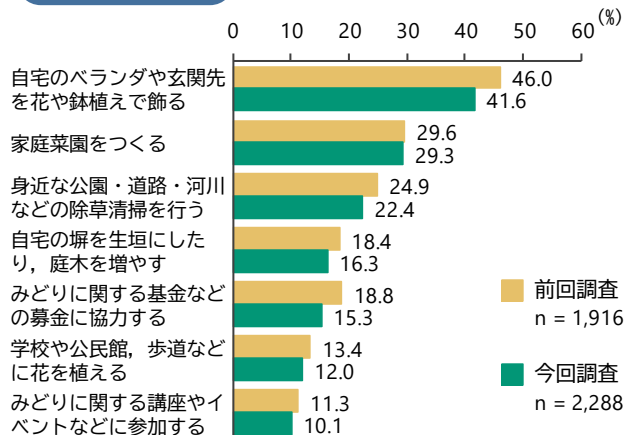
実践している活動



■前回（2019 年度）調査との比較

全体的に大きな傾向の変化はみられないが、実践している活動、実践したい活動どちらも、ほぼ全ての項目で回答割合が下降している。

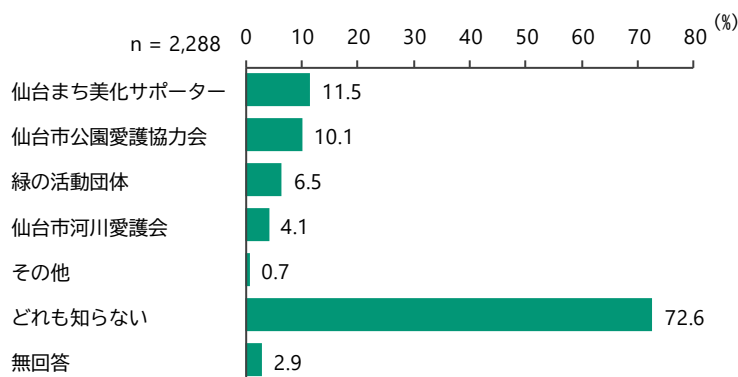
実践したい活動



※複数回答可（いずれも個数制限なし）

※今回（2024 年度）調査の上位7項目を抜粋

2 みどりに関する活動団体の認知度



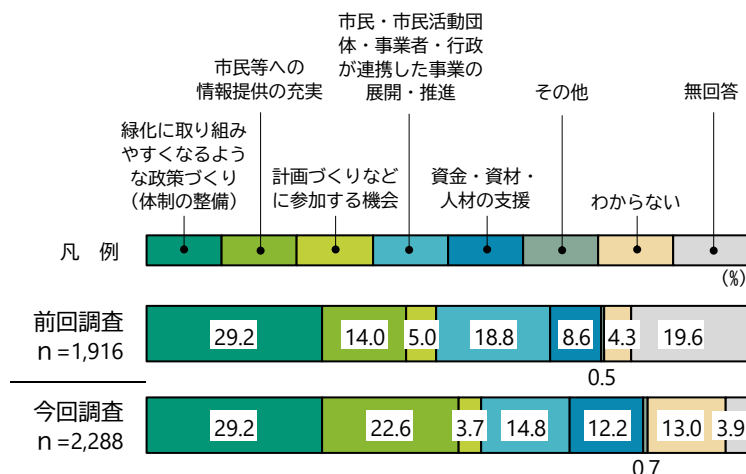
■今回（2024 年度）調査

概ね1割前後の人が「仙台まち美化サポーター」、「仙台市公園愛護団体」を選んでいる。なお、7割以上の人が「どれも知らない」を選んでいる。

※今回（2024 年度）調査の新規聴取設問のため、前回比較をしていない

※複数回答可（個数制限なし）

3 みどり豊かなまちづくりのために必要なこと



■今回(2024年度)調査

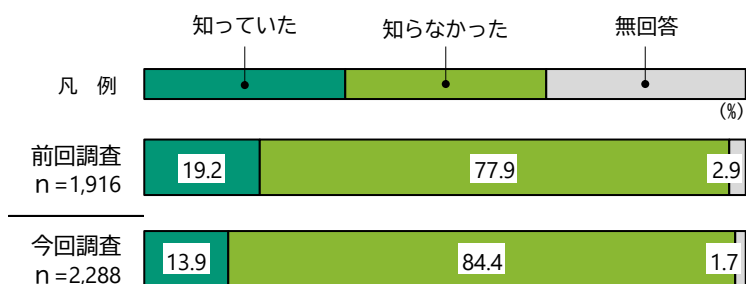
約3割の人が「緑化に取り組みやすくなるような政策づくり(体制の整備)」を選んでいる。

■前回(2019年度)調査との比較

「市民等への情報提供の充実」がやや上昇している。

「グリーンインフラ」について

①グリーンインフラという言葉の認知度



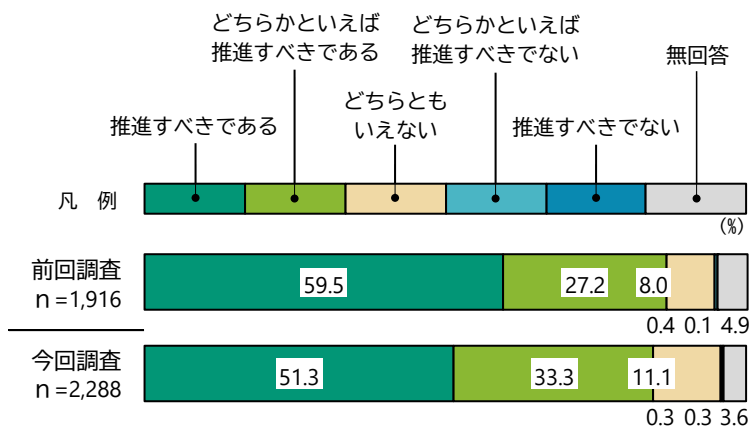
■今回(2024年度)調査

「知っていた」人は1割台にとどまっている。

■前回(2019年度)調査との比較

「知っていた」がやや下降しており、認知度の低下がうかがえる。

②グリーンインフラの考え方を取り入れたまちづくり



■今回(2024年度)調査

8割以上の人が「推進すべきである」または「どちらかといえば推進すべきである」を選んでいる。

■前回(2019年度)調査との比較

「推進すべきである」が下降しているが、「どちらかといえば推進すべきである」との合算値に大きな傾向の変化はみられない。

令和6年度みどりの市民意識調査 概要版
令和7年1月
仙台市建設局百年の杜推進部百年の杜推進課

〒980-8671 仙台市青葉区国分町3丁目7番1号
TEL: 022-214-8389

※本調査の詳細については市ホームページ
(<https://www.city.sendai.jp/hyakunen-chose/kurashi/shizen/midori/mesho/chosa.html>)
をご覧ください。